



DXA(デキサ)X線骨密度測定装置 前腕DXA装置から GE大腿骨・腰椎DXAに切り替えて

北原医院 婦人科 日本女性医学学会認定 女性ヘルスケア専門医
 吉山 賢一 先生



骨粗鬆症学会(広島国際会議場)のGE展示ブースに前腕DXAからGEの大腿骨・腰椎DXA(デキサ)骨密度測定装置を導入された宮崎県都市の北原医院 婦人科 吉山賢一先生がいらっしゃいましたので、お話を聞かせていただきました。

医院の概略

1964年に父、吉山政敏が、北原産婦人科医院として開業しました。

1998年、更年期女性の内科診療を取り入れ、北原医院と変更し、同じ頃、前腕骨専用の骨密度測定機を導入しました。

2001年、私が赴任し、父と共に通常の産婦人科診療をしていました。

2008年、妻で、産婦人科医の吉山登志子さんが加わり、女性医師外来を始め、私は、骨粗鬆症などの更年期外来診療に専念することにしました。



導入の背景

元々、前腕DXAで骨粗鬆症診断と治療を行ってはいましたが、2013年8月に日本女性医学学会専門医の試験を受けました。事前に6ヶ月程勉強し、婦人科や内科などの分野は難なく解答できましたが、不慣れな骨粗鬆症分野は容易ではなく、悔しい思いをしました。それ以降、懸命に知識習得に励みました。それが私を骨粗鬆症診療になお一層駆り立てたと言えます。試験勉強で使用した日本女性医学学会のガイドブックで、骨粗鬆症診断と治療には大腿骨・腰椎DXA装置が重要であることを知りました。本格的に骨粗鬆症診療を開始する時には大腿骨・腰椎DXAに切り替えようと思いました。

大腿骨・腰椎DXA装置の導入について

2013年9月頃、女性医学学会の専門医試験を受けた後に、GE社の大腿骨・腰椎DXA骨密度測定装置に関するダイレクトメールが入りました。そのリーフレットに、診療報酬(前腕120点、大腿骨・腰椎を一度に測定で450点)の記載があり、購入を後押しされました。当院では長年、日立アロカ社の前腕DXAを使っていましたが、その時に初めてGE社が大腿骨・腰椎DXA装置を販売していることを知りました。

2013年10月、日本骨粗鬆症学会に参加し、日立アロカ社、東洋メディック社、GE社の3社のブースを訪問し、説明を聞きました。ブースで偶然お会いした、骨粗鬆症診療でお世話に成り始めたばかりの宮崎県の整形外科の先生が、東洋メディック社だったら治験ができることを強調されていました。実は、治験は東洋メディックの販売している装置だけで行うものではなく、実際はGEのDXA装置でも出来ることが後日判りました。

2013年11月、都市内で実際、各々の業者立会いで、東洋メディック社とGE社の装置を見学しました。日立アロカ社の躯幹骨DXAを設置された施設は都市内にはなく、その時、新製品を開発中ということで断念しました。東洋メディック社のものは、産婦人科医には操作が難しいと感じました。一方、GE社のものは、腰椎と大腿骨片側を一連の流れで測定できる機能(One Scan)が印象的でした。骨粗鬆症の研究を熱心に行っている女性医学学会理事の先生に相談した所、GE社か東洋メディック社のいずれかを選んだらよいとアドバイスを貰いました。

2013年12月、翌年には消費税が上がるため、操作性を考慮して、GE社の大腿骨・腰椎DXA装置に決めました。

設置について

2014年1月、GE社の担当の方と正式に購入の契約を交わしました。翌月、これまでの前腕DXA装置と(昔、父が行っていた)胃のX線透視装置を2台とも撤去し、内装もきれいにしてGE社の大腿骨・腰椎DXA装置を設置できました。

前腕DXAからGE社の大腿骨・腰椎DXA装置に切り替えて

まず、装置を切り替えたことで変化が生じた測定値ですが、その精度に不満・不信はありません。「当然、前腕DXA装置から大腿骨・腰椎DXA装置に変えれば測定値は変わります。」といった風に、患者様も素直に理解してくださいました。

導入を開始してから、産婦人科医の妻が患者様に製品パネルを見せながら、対話形式での骨粗鬆症と診断測定・治療の紹介説明を、問診の一環として行っています。それが功を奏しているようで、患者様は好意的に受け入れてくださいます。

患者様にレポートを使って説明するのですが、判りやすいためか患者様の理解も得られ、確実にリピートで来院して頂いています。

実は、前腕DXAを使用していた頃、私はSERMLしか投薬できませんでした。前腕DXAのファントムの調整が必要であることも知らず、不正確であった上に、ビスホスホネート等は、副作用が気になり、処方できませんでした。GE社の大腿骨・腰椎DXA装置を導入してから、様々ある骨粗鬆症薬ビスホスホネートやテリパラチド等を投与できるようになりました。

装置の操作や運用について

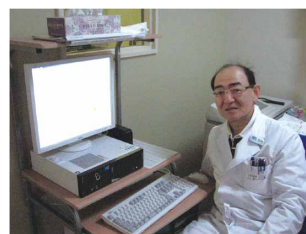
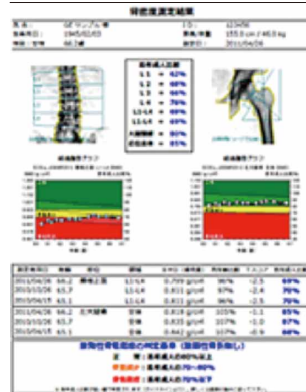
まず一連の操作は間違いなく簡単です。当院では私自身で全て操作しています。技師は一人も雇っていませんが、支障ありません。スムーズに行くCaseでは、およそ5分間で終わります。長く掛かるCaseでは15分間位

でしょうか？長く掛かるCaseというのは、腰椎変形で解析に手間取ったり、私が慣れないせいで判断と対応に迷ったりしてしまうCaseです。導入当初は解析がスムーズに進められずに時間が掛かっていましたが、日々、スムーズになってきています。今でも知識とKnow-Howの習得を心がけています。

製品パネル



患者レポート



以前に整形外科でGE社以外の大腿骨・腰椎DXAを受けられた患者様が当院(産婦人科)で検査を受けられると、以前の整形外科では待ち時間が長い上に、測定も腰と大腿骨が別々の体位で少し苦痛であったとよく伺います。当院では、医師が測定した直後に装置の横で、結果説明できるからだと思います。必要があれば追加で私が単純XPを撮影しています。

経営的な変化について

GEの大腿骨・腰椎DXA装置を導入して経営状態は良くなり、経営方針を変更しました。

2015年7月から分娩等の入院管理を辞め、外来だけの産婦人科クリニックに切り替えました。入院病棟を有していた時は、24時間緊張して僅かな入院患者様に対応していました。都城市近郊には産婦人科医院が多くありますから、当院が入院病棟を閉鎖しても妊婦さん等の受入れ体制は充分だと思えました。結果、骨粗鬆症や婦人科等の外来管理に集中できるようになりました。主に、産婦人科医の妻が思春期～更年期の産婦人科、私が更年期～老年期の婦人科・内科や骨粗鬆症の診療に注力し経営しています。

患者様に来院していただき、そして継続して来院していただくことは大事です。この点も上手く行っています。上手く集患とその維持が出来る要因がいくつかあると思います。

たとえば、(1)患者様同士、更に患者様の人脈を介しての情報Share、(2)都城市内の産婦人科医院で唯一、大腿骨・腰椎DXA装置を有しているという差別化、(3)妻が患者様のお話をよく聞きながら、患者様のためにという雰囲気や大事にして接してくれている点での好感度維持、(4)患者様の良い経験、骨粗鬆症が良好な状態に改善したこと、などです。

当院では前腕DXA装置からGE社の大腿骨・腰椎DXA装置に切り替えてから、投与する骨粗鬆症治療薬の効果測定が可能になり、診療が改善され、

その改善を患者様だけでなく患者様のご家族を始めとする方々と、共感できています。今後も日々、骨粗鬆症診療に努力を続けていく所存です。皆さん、是非、よろしくご指導をお願いします。またGE社の大腿骨・腰椎DXA骨密度測定装置の良さも皆さんに共有して行きたいとも思います。



※GE Smart Mail vol.136より抜粋

医療機器認証番号 21500BZY00582000 号
販売名称X線骨密度測定装置 PRODIGY
PRODIGY-Cは、販売名称X線骨密度測定装置 PRODIGYの
類型「PRODIGY」のコンパクトサイズテーブル
PRODIGY Advance-Cは、販売名称X線骨密度測定装置 PRODIGYの
類型「PRODIGY Advance」のコンパクトサイズテーブル
本装置は、クラスII医療機器、設置管理医療機器・特定保守管理医療機器に該当します。

※記載内容は、お断りなく変更する場合がありますのでご了承ください。
お客様の使用経験に基づく記載です。仕様値として保証するものではありません。
©2016 General Electric Company - All rights reserved
Printed in Japan
Rev.1.0 2016/1 6A・BB-1(KM・KM) Bulletin L4A17 JB35577JA